

担当職員から見たまちぢから協議会の課題

組織運営に関すること

- ・コミュニティセンターとまちぢから協議会の連携がとれている地域は、情報伝達等もしっかりしている。
- ・他地区の活動状況や課題解決方法を参考にすることがない。
- ・体育振興会とスポーツ部会・推進協と子ども部会のように、二重組織になっている場合があり、二重の事務が発生している可能性があると考えます。
- ・まちぢから協議会とコミュニティセンターの連携。
- ・新委員の方が年間を通しての流れを把握することが難しい。
- ・部会のメンバーや活動動状況が分かりづらい。
- ・地域の中でも、まちぢから協議会設立の目的や、今後の在り方について議論をしているが、なかなか答えがでない。
- ・地域の課題を協議する場(器)はあるが、課題をどのように拾って、誰が解決するか、などの具体的な策に結びつかず、理想と実態に乖離があると感じる。

人・担い手の育成に関すること

- ・役員会・定例会に加えて、部会活動、イベントなどあり、委員の負担が大きいように感じる。
- ・長年役員を続けてくださった方が退いた後に体制が揺らぐことがある。
- ・各地区の規模や委員(主に会長や役員)の状況により、活動内容等の差が生じてしまう。
- ・担い手がおらず、役員が固定化されてしまう。
- ・自治会長が変わるたび、引き継いだことがリセットされてしまう。
- ・参加している委員の間に温度差がある。
- ・運営委員として初めてまちぢから協議会に参加した方が、積極的に部会活動へ参加する仕組みがないと、新しい方が部会に参加できない。

その他

- ・「まちぢから協議会」の名前が浸透していない。(庁内においても)
- ・まちぢから協議会を立ち上げた方々の思いなどを壊さず、まちぢから協議会の必要性を伝え続け、参画してくれる方を増やさなければならぬと思う。